

ツバル語におけるココヤシ・ココナツの民俗分類と文化語彙

橘 広司 (金城学院大学)

本研究の目的は、ツバル語におけるココヤシとその果実であるココナツに関する文化語彙を蒐集し、「ことばと環境」の観点から民俗分類のありようを分析・考察することである。民俗分類とは、ある集団の伝統社会において共有される事物の分類・命名・体系化の仕方をいい、それにより命名された集団固有の単語群を文化語彙と呼ぶ。ツバル語では、ココヤシやココナツの名称が成長段階によって変化するが、これはココヤシ・ココナツに依存したくらしを営む集団の言語に固有の民俗分類といえる。

調査の方法としては、まず、既存のツバル語辞典 (Jackson 1993, 2001, Ranby 1980) に掲載されたココヤシ・ココナツに関係する語をすべて抜き出し、一覧にした。それをもとに、現地で聞き取り調査をおこない、その結果、辞書の定義があいまいであったり不十分であったりする語には加筆修正を加え、新たな定義づけをした。また、フィールド調査中に発見した辞書に未掲載の語も一覧に加えた。単語のほとんどは名詞であり、そのなかにはココヤシ・ココナツの部位別・発達段階別・用途別・状態別名称が含まれる。ココヤシ・ココナツの用途は、建材、衣類、飲食物、器、籠、玩具、漁業用具、縄紐、着火剤などじつに多岐にわたり、それぞれに異なる名称が与えられている。また、数は少ないが、動詞に関しても、「ココヤシに登る」「ココナツの皮を剥ぐ」「ココナツの胚乳を削る」などココヤシ・ココナツにしか用いられない語を一覧にまとめた。

ボアズは、民俗学的研究のもっとも重要な分野のひとつとして言語研究をあげている。人間の言語に現れる諸概念と民俗学的事象とは切りはなせないものであり、あらゆる民族のものの見方や慣習は、個々の言語的特徴に明らかに映し出されているからである (Boas 1911)。サピアは、話者の自然環境、社会環境をもっとも明らかに映し出すのはその言語の語彙であるとし、語彙は人々の考え方や関心事を貯蔵する知の宝庫であると述べている (Sapir 1912)。そうであるがゆえに、われわれはある言語のなかに、文化や環境の異なる別の言語には翻訳できない語の数々を容易に見つけることができるのである。

諸言語のありようは、人間集団をとりまく環境をどのように切り分け、認識するか、環境に対してどのような適応戦略をとるかということに深くかかわっている (宮岡 2002)。ツバル語は人口約 1 万人の少数言語であるが、いま、島民の英語社会への国外移住や島の近代化という環境変化のなかで、伝統的な語彙や表現を失いつつある。そのような状況にあって、ツバル語の語彙を民族の文化や慣習、人々のくらしとのつながりのなかに捉え、体系的にまとめた先行研究は管見のかぎりない。本研究では、民俗学的言語研究の視座に立ち、とりわけ文化語彙に焦点をあてて、ツバル語が映し出すツバル人のくらしと環境世界を探る。